

# 賛成・反対 全討論（要旨）

番号は発言順

## 1 ●反対 名取武一

私は、脱原発・自然エネルギー活用論者だが、この進め方には反対。町民の皆さんには、第3セクターの設置について、パノラマ、土地開発公社の苦い経験から、大きな危惧感を持っている。この事業を進めるには、町民アンケートなど町民の民意を確認した上で進めるべきで、先月26日の説明会だけで町民の皆さんのご理解が得られたとは到底思えない。

## 2 ○賛成 宮下伸悟

賛成するが、利益の全部を土地公の借金返済に充てるだけでは、公費投入に値する公益性は担保されない。メガソーラーの利益を自然エネルギーの推進、公共施設におけるソーラーパネルや蓄電池の配備など、町民の安全・安心を守るために設備投資にも充てる旨、町長は明言した。この答弁が町民との約束として具体化されることを強く要望していく。

## 3 ●反対 小林市子

儲けを得て財源を確保する方法だからと、メガソーラー計画を町単独で進める事業はリスクを伴う。官民共同か民に任せたなら賛成。町としては、農商工業へのテコ入れを優先させ、社会資本整備に配慮することが必要。町長と社長が同一人物という（双方代理の禁止）甘い構図の第3セクターについては、反対。

## 4 ○賛成 小池博之

メガソーラー事業は、土地公が抱える11億円の負債返済を大きな目標としている。同時に国の新エネルギー政策と、県が本年度スタートした「信州自然エネルギー元年」を先取りするもの。隣地で進められる9メガワットの県の発電施設とともに、クリーンエネルギーを活用した「メガソーラーの町・富士見」として、地域の活性化を進めるべきだ。

## 5 ●反対 佐久祐司

町民に対し説明責任が果たされていない。また、議会に対しても300万円の調査費を使っていながら、資料が少なく事業性を評価できない。リスクに対する考え方も甘く、発電事業はビジネスとして慎重に取り組むべき。パノラマに10億円、そしてまた2億円と次々に多額の貯金を取り崩している。超高齢化社会を迎える今、行政のやるべきことは他にある。

## 6 ○賛成 三井新成

町の財政運営健全化（負債を減らす）を進める上では、土地開発公社の抱える土地の評価損により発生した負債11億7000万円を、削減することが必要。太陽光発電を事業化することにより、42円20年の買取制度を利用し、見込まれる約7億円の利益をその負債に充当することは、事業の正当性を持ち得ると確信し賛成する。

## 7 ●反対 平出隼仁

メガソーラーの事業を町で推進することは賛成。事業の可否の大前提となる系統連系の回答がないこと、資料の提示がなく事業計画を精査できること、自治体が事業に対し担保のない投資をするべきでないことが反対理由。過去の3セクで懲りている。この事業は民間にまかせ、安定した税収を確保し、自主財源とすることが賢明である。

## 8 ○賛成 五味平一

土地開発公社の短期借入金は、13億6700万円もあり、平岡・鳥帽子の土地については、約11億7000万円の返済額となる。メガソーラー事業により7億3000万円が返済可能となり、また、脱原発・地球温暖化防止策の低酸素社会実現には、再生可能エネルギーの利用が急務。本事業に反対する理由はなく、議員の責務として速やかに完成させたい。

## 9 ○賛成 加々見保樹

第3セクターによる運営方針に批判があるが、パノラマスキー場の問題は「客」という他力本願、ブーム・景気によって左右される収益体質にあった。今回は20年間の固定価格買取制度が確実に保証されるなら収益が固定化されるので、土地開発公社の不良債権解消のため、何も対策を講じないよりやるべき価値はあると思う。

【No.125】 2012年10月15日発行

発行：富士見町議会  
編集：議会広報編集委員会

〒399-0292  
長野県諏訪郡  
富士見町落合10777  
TEL 0266-62-9403  
FAX 0266-62-9320  
E-mail gikai@town.fujimi.lg.jp

### 議長 織田昭雄

（議長は裁決に加わりません）

今臨時会で可決された「メガソーラー発電所計画」は、反対議員でもソーラー事業そのものに反対ではないと思う。富士見町の未来のために、出来上がった計画を行政と議会が一致団結し成功に導いていくのが、これから責務と考える。少子高齢化が益々進む中で、時代に乗り遅れないよう先を読み、安心して暮らせる町づくりを目指していきたい。

## 10 ○賛成 小池 勇

20年におよぶ「土地公不良資産問題」に解決の筋道をつけられるかが、最重要な論点だと考える。詳細調査により、リスクよりメリットがはるかに勝っていることが明らかとなった。町財政の健全化に多大な貢献が期待される。よって、賛成である。反対者からこの問題に対する実のある言及がなかったことは、残念という他ない。